

平成24年 ローソクボツケ分布量調査結果速報 (2)

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 鈴木 電話：0162-32-7166

- ・ 稚内水試では試験調査船北洋丸により、2003年以降、毎年9～11月に稚内ノース場(811, 812, 813漁区)で着底トロールによるローソクボツケ(0歳魚)の分布量調査を行っています(図1)。この調査の目的は、新しく資源として加わる0歳魚の資源豊度を早期に評価し、資源の将来予測に役立てる事です。調査では各漁区で原則2回の曳網を行い、その漁獲量から評価しています。2012年10月29日～11月2日に第3次調査を実施しましたので、第1次調査、2次調査の結果を合わせてその概況を報告します。
- ・ 図2に2009年から2012年までに稚内ノース場で採集されたホツケの体長組成を示しました(図2)。体長16～24cm台が概ね0歳魚で、2012年は9月に見えていた0歳魚は10月になって見えなくなり、11月に再び漁獲の中心となりました。
- ・ これまでの調査の着底トロール1マイル当たりの0歳魚平均漁獲量を示しました(表1)。2012年11月の採集量は53.3kg/N.Mで、今年9、10月の調査(それぞれ5.8、3.3kg/N.M)と比べて多くなりましたが、2006年以降の11月の調査と比較すると7年中5番目でした。
- ・ 一方、0歳魚の平均体長と加入尾数との関係には負の相関があり、資源豊度の高い年級群ほど平均体長が小さい傾向が見られます(図3、4)。今年10月の平均体長は11年間の調査で最大でしたが、11月の調査では約212mm(暫定値)で、8年間の調査で上から3番目の大きさでした。11月の結果からは、2012年級は2011年並と予想されます。
- ・ 以上の結果から、2012年生まれのホツケの資源豊度は低～中水準であると考えられます。
- ・ これまでの調査から2012年級群の主な親魚となる2010年級群の豊度が極端に低いことが分かっており、今回の調査では想定通りの結果となりました。厳しい資源状態に変わりはありませんが、今後漁獲圧削減の取り組みを沖底・沿岸で一丸となっておこなうことで若齢魚を中心に獲り残され、資源回復がなされることを願っております。

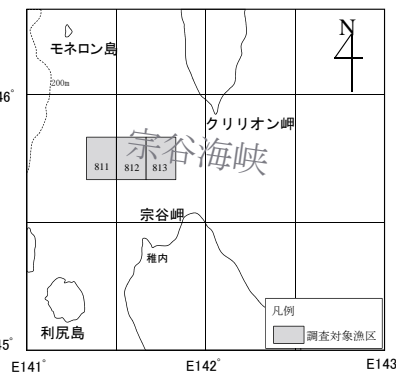


図1. 調査海域

調査年	9月	10月	11月
2003	71.0	147.7	未実施
2004	1.6	22.8	未実施
2005	114.2	185.9	未実施
2006	0.0	0.1	312.6
2007	23.6	213.6	121.5
2008	19.9	18.4	794.9
2009	75.3	107.6	218.4
2010	5.1	0.1	6.8
2011	46.2	7.1	8.4
2012	5.8	3.3	53.3*

※暫定値

表1 着底トロール1マイル当たりの0歳魚の平均漁獲量(kg/N.M)

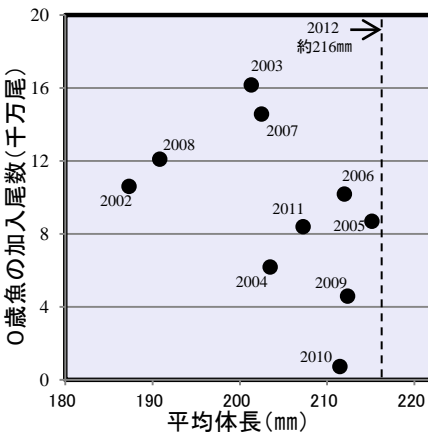


図3. 10月の0歳魚の平均体長と加入尾数の関係

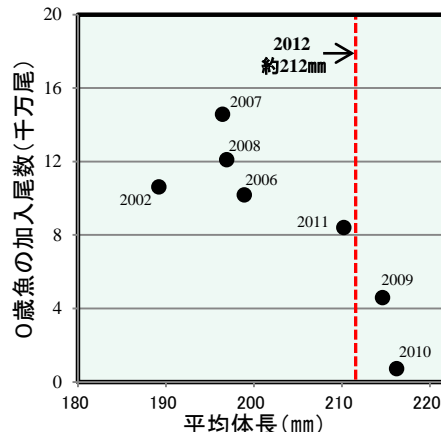


図4. 11月の0歳魚の平均体長と加入尾数の関係

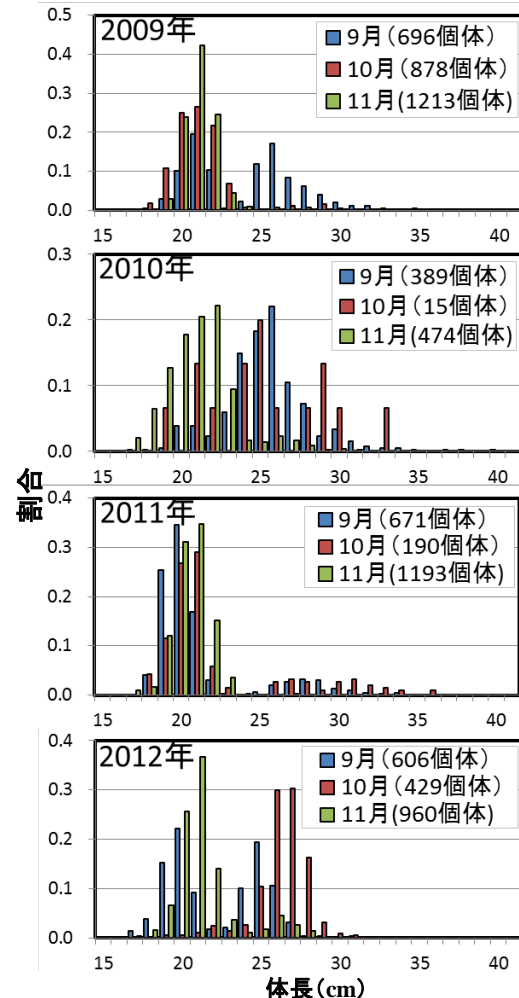


図2. 採集されたホツケの体長組成(個体数は測定尾数)